

『共に語ろう！歯科技工士のこれから Vol.2 』

公益社団法人日本歯科技工士会 会長 杉岡 範明

Vol.1 では、歯科医療および口腔保健等の増進に歯科技工士がどのように関わって来たのか、また、今後どのように関わって行くべきか現状を客観的に検証してきた。

今回の Vol.2 では、国民の健康寿命の延伸について、近年、様々な研究が行われ、歯科医療の果たす重要性が話題になっていることから、今後もその役割を担っている歯科技工士は欠かせない存在であるという確固たる認識の上で、歯科技工士が熱意をもって業務に従事するためには、相応しい環境整備が不可欠であり、これは、従事する者の利己的主観では無く、まさに、国民の利益であるとの視点で話を進めたい。

また、この環境整備に道筋をつけることこそが、歯科技工士会組織の存在目的であり、今を生きる私たちの責任でもある。私は、問題解決には常に手段と戦略が必要であると思っていることから、様々な要素を網羅した中でどう取り組むべきか、具体的な対策を示し、21世紀の日本という成熟社会の中で、歯科技工士が価値のある職業として生き残るための論理的な議論をしたい。

そして、議論は机上の空論で終わることのないよう、実効性があり、ポジティブで希望が持てるという評価基準で、歯科技工士のこれからの共に語ろう。

『歯科技工業界の展望と日技の活動』

公益社団法人日本歯科技工士会 副会長 時見高志

昨年、第 186 回通常国会において歯科技工士法の一部改正が行われ、来春の歯科技工士試験からようやく国家資格に相応しい全国统一試験として実施されることとなりました。

統一試験の実施により、どのような影響がでるのか？また、経済問題を中心とした歯科技工士を取り巻く懸案事項の改善は進むのか？

その他、歯科医療界と歯科技工業界を取り巻く現状と将来展望、就業歯科技工士の減少がもたらす影響や歯科技工経済問題等、私たちが抱える懸案を解決するための日技の役割と活動について報告いたします。

演題 変革期を迎えた歯科技工士のあり方

近年、歯科界に CAD/CAM が普及し、人の手をなるべく介さない補綴装置のデザイン、製作が可能になり、歯科技工を取り巻く環境も変革期を迎えています。しかしながら品質の高い補綴装置を目指すにあたり、生体との調和、永続性、患者の要望等、個々の患者の補綴装置をデザインし、患者にやさしい補綴装置を製作するには、現状では歯科技工士によるデザイン、補綴設計が必要不可欠です。そこで、今回は補綴装置製作にあたって日常の臨床を提示し、考察してみたいと思います。

藤川デンタルアート

藤川秀樹